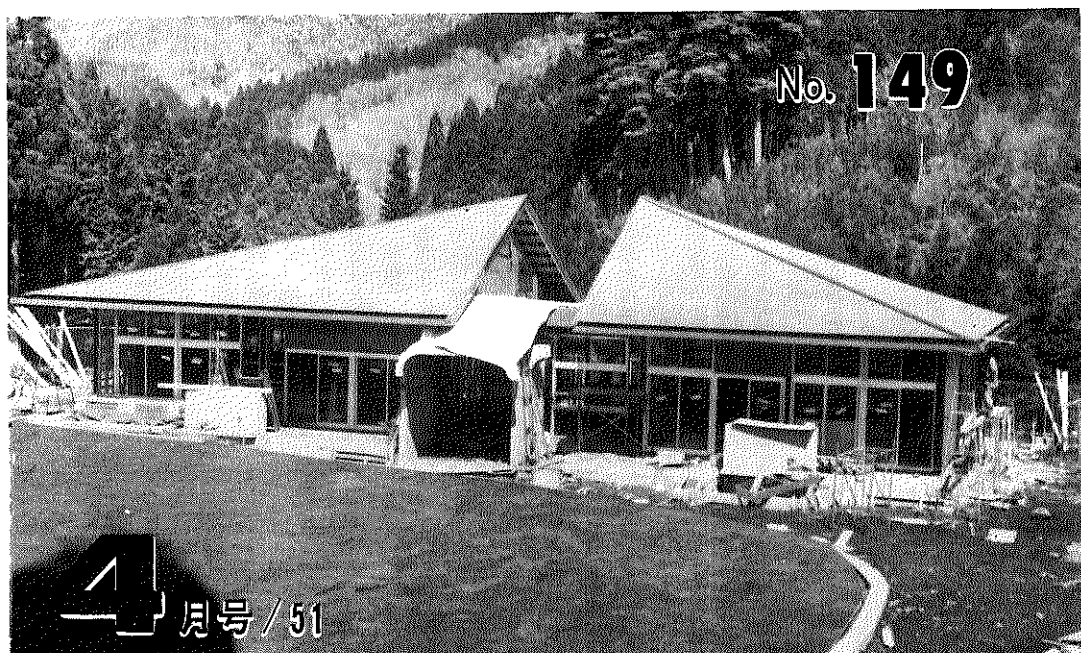




みなみおくに

TEL 6 - 3118

世帯数 1,355戸

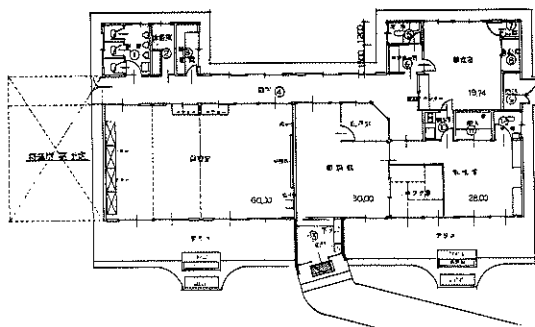


完成した黒川保育所

部落の話題

- 1、黒川温泉公園完成を待つ
温泉旅行客の憩いの場として計画。
4月には開園の予定。
- 2、全国春の交通安全運動実施
4月6日～4月15日までの10日間
「こどもを交通事故から守ろう」
- 3、県共済農協連合会よりカーブミラー寄贈
町道交通安全施設の強化にあてる。
脇戸線1本、手形野線1本、上中原線1本
地藏原線1本、農免道路1本、星和線1本
大事に使用しましょう。
- 4、新入学おめでとう。各学校新入学者数は次の通りです。

南	中男52人	女51人	市	原小男22人	女16人
中	原小男6人	女17人	満	願寺小男4人	女2人
星	和小男1人	女4人	黒	川小男4人	女6人
市	原保男50人	女35人	黒	川保男18人	女12人



黒川保育所完成

一、総工費（建物）千七百八十万円

敷地面積 二〇四九 m^2

一、建物面積 二〇二 m²

黒川、瀬ノ本と観光地を持つ本町はサービス業を主とした、従業員も年々増加し、この地域は総人口の約一割をしめるほどになった。このため現在の市原保育所一ヶ所では遠距離に当り、児童の安全を計ることが困難であるため、このほど福祉施設の強化として建設のはこびと成ったものです。

住民課

昭和51年度 施政方針

第1回定例町議会開かる



町長 藤 堂 真 人

化を図ることを基本とし、経済情勢の変動に応じて、機能的、弾力的な運営を図り得るように、地方財政計画案の策定措置がなされております。

ここに昭和五十一年度の予算案の提出にあたり、施政に対する基本方針を申し述べ、各議員の皆様と町民の皆様の深い、理解と御協力をお願い申しあげます。

五十一年度における、わが国の政治経済の情勢の推移と、地方財政の現状は戦後最大の未曾有の危機に直面致しております。しかし地方財政については、国と同一の基調により地域住民の生活安定と福祉充実を図るとともに、景気の回復に資するため、地方財源の確保に、特段の配慮を加えつつ、財源の重点的配分と、経費支出の効率化に徹し、助政の改善及び合理

算化は、六月補正時迄、繰延べを己む無きに致っており、その対応策と真相究明を国に対し、強く要望するものであります。

昭和五十一年度の地方財政計画は総額二十五兆二五九億五億円で、前年の比に対し三兆七千〇〇七億円増加しておりその増加率は一二・二%であります。この事は国家予算が十四、一%の増加に比べれば、地方財政への投資率の方が三、一%多く、計画策定されたことになりました。内容的には人口過密、過疎対策、地域振興、福祉の向上と、地方財政を救済しようよう重点施策が処置されております。

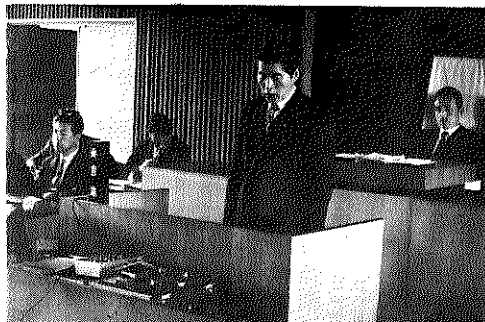
これに相応した、五十一年度の全国都道府県の予算編成状況を例にあげますと、対前年比で約十一、三%の伸びを示していますが、本年度の特徴は、景気浮揚策を前提とした予算編成を行なっていることと、国、県共に公共事業並びに教育、福祉、医療、農林畜産、商業、環境整備事業等の充実に特に力を入れております。

本町の予算編成に当りましては、昨年以上に財政硬直化のきざしが伺える今日、町民のために「明るく住み良い豊かな町作り」を大前提として、住民の福利増進、社会

福祉の充実、農林業の振興発展対策と積極的拡充を最大目標に処置致しております。

私の基本理念は、全町民の皆さんとの対話を基本方針とし、百年の計に基く、町有林経営計画、それに附随する事業案の青写真の作成に有り、町民すべての健康で明るい家庭作りであります。そのためには、老人を尊ぶ人間性をつちかい、人として、人を作る、人材確保に重点を置き、南小国町発展の基礎を築いたその偉大なる先祖をうやまう人作りに全力を傾注致します。

当初予算案の内容を申し上げますと、一般会計予算として、総額



七億八千七百九万八千円を計上しました。これは対前年度当初予算比率で一〇、一%の伸びであります。

(歳入)

歳入の主なるものを掲げますと、やはり地方交付税が最も多く、総額の四十五%を占めております。

次に多いものとして、国、県、支出金の二十%であります。大半が補助事業施工に伴う、歳入であります。

自主財源としての、町税ならびに財産収入は、総額の二十%をやっと確保できるに過ぎない現状であります。なお地方債は、現在その適確不確定要素が多く、当初においては、過疎対策事業債、公有林整備事業債、及び公営住宅建設事業債のほか、地方交付税に替るものとして、本年度に限り発行される臨時地方特例交付金と財源不足対処地方債を財源として計上致しました。

(歳出)

歳出面では、人件費が最も多く二億四千六百万円余で、総額の三十一、五%を占めていますが、深刻化する、町財政の中にあつて、高いウエートを占めているのも事実であります。しかし、じっくり観察致しました結果、現在の町行

政を円滑に推進し、住民サービスに徹するには、絶対に欠せぬ経費であり、内容的には、役場内の職員数を各課一名宛減らし、事務的には、必要とする課に於ては、随時行いますが、本年度は税務事務に於て、電算機システムを導入し、窓口業務の充実と、事務の合理化を図り、効率的行政サービスに努めます。

次に、公共事業への投資ですが、総額の二十一、四％にあたる、一億六千七百万円余を計上しました。なお本年度は、予算編成にあたり特に物件費の内、一般経費を節約し、事業費は増額しました。総額に於ては、前年度より、増となり、財政需要増加の状況を考慮して、財源の確保と、重点的な配分を図り、予算編成を致しました。

一方には、不況失業の谷、もう一方には高物価、インフレの谷があり、我々は、どちらの谷にも落ちずに、インフレなき、経済発展を計らなければなりません。

それには、全体主義的な、統制経済のやり方ではなく、町、組合企業、個人の良識と、自制と協調に基づく自由と民主のやり方で、やる決意であり、連帯と、総合扶助の精神であり、同時に、私の構想とする、生涯設計計画は、教育

も就職も住宅も福祉、老後もすべてを、含むものであります。全町民の皆様の深い理解と御協力を心からお願ひ致します。

では、個々の諸施策について、申し述べますと

(学校教育問題)

教育は、私が最も重要視している政策面であり、教育文化の振興、施設の充実を図り、英知と、技能を十二分に発揮し得る、教育環境を整備し、将来の南小国を築く、智性豊かな人作りに、全力を傾注致す覚悟であります。資源に恵まれない、当町ではありませんが、天の与えた、最大の恵みは人であり無限の能力を秘めた、人間こそ町の宝であり、其の能力を引出す事が、教育の責任であります。現在、教育を受けつつある、青少年こ

二十一世紀に活躍する、未来の創造者であり、今日の教育をおろかにする事は出来ません。青少年の智、徳、体、均衡のとれた教育成果を上げ得るよう最大の努力をする事が私どもに果せられた、指命であります。本年度は永年の懸案であります、中学校改築事業もいよいよ実施の運びとなり、五十一年度で用地の取得、並びに造成事業を行ない五十二年度で校舎建築、五十三年度で特別教室棟の建



老朽化した南小国中学校の全望

設を予定しておりますが、本年度の国の地方超過負担が少しは解消されましたものの、未だ満足出来る様な措置が構ぜられてはおりません。一段と、多難が予想されますが全力をそそぎ努力します。尚、本年は中原小学校のプール建設を予定しておりますが、満願寺、星和、黒川各小学校のプール建設等は今後の懸案と致しております。町内水泳場の水質検査も、五月より定期的に実施し、そのデータに基き各校に指導、指示を行ない生徒の安全確保し、万全を期します。社会体育は最も重大で、和と健康のもとを作るパロメーターであり、社会教育、体育の充実の振興に力を入れ、指導面の強化を図り、それを町作りの一つの基盤と致したのであります。

各学校の整備等については、必要に応じ、其の措置をし、各児童が安心して教育が受けられる様、予算と絡み合せて策を構じます。懸案であった黒川保育所もただいま建設中であり早急に完了し、一日も早く開園を予定しており、今暫らくの辛抱をお願いします。

◎農業問題

昭和三十六年、農業基本法が施行されて農業経営の規模拡大と機械化、合理化、農産物、価格の安

定と、農業所得の確保、需要が減少する農産物の生産転換など種々定め、これにより一方で生産性向上による所得の増大を図ると共に、地方では農村から都市への労働力の流出を推進した。しかし、世界的食糧需給の窮迫化の下で食糧自給率の向上が、要請されている現状では基本法の見直しが必要であるとうわさされている。

今日の農政は多くの諸問題を抱え、低迷しているものは他にありません。この事は農業を基盤とする本町にとって、誠に重大な問題であります。私はここに農業のあり方、農業理念の一大改革を行ない、従来の習慣にとらわれる事なく、本町の気候、風土、地理的条件を十二分に生かし、限りある農業基盤の整備、充実に努める覚悟であります。私は就任以来、無公害企業の導入と農業経営方式の改革に基づく農業余剰労働力の町内吸収を目標に日夜努力してありますが、この点については農業所得増大のため関係各位の絶大なるご協力とご援助を賜わらなければなりません。

今からの農業は、企業的農業を目指し、労働力を多角的再配分を行なわなければならないと考えております。



キユーリ選果状況

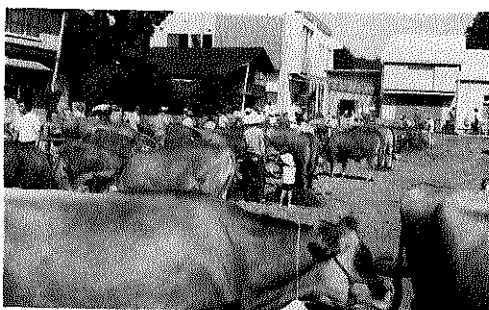
栽培、たばこ、養蚕の振興を努め、品質の向上と量産、価格の安定を図り、流通機構を確立するために、集団組織を充実させる必要があると思われまゝ。このためには、大切な消費者との信頼感を深め、産物の安定供給に努力しなければなりません。五十年より、試作と致しまして、上中原地区の小規模請負耕作を指定し、県、町が補助致しまして、其の事業に取り扱んでおります。生産資料の自給で、生産力を上げ、自給の放棄は農業公害につながります。復合経営による品質と販売、信頼度が高いものにすべきであり、真剣に取り扱むことが肝要であります。

◎畜産問題

畜産の伸び悩みは農業と共に、深刻であり、後継者難と飼料高は畜産前途を暗くしております。世界で畜産の成功している国は、オランダだけだと言われ、今後の大きな課題となっております。しかし、小家畜では養豚が良いと言われ、日本の養豚家達の間では、世界のトップレベルにあると言われ、中国の養豚は五千年の歴史を持ち、ハリと漢方を使い、独立自営の道を築きあげております。また、肉質も味も日本の豚にくらべ数倍も良く其の理由は全くタダの材料を

発酵させ、酸、甘、香、成、軟、熱、酒味という味を付け栄養価の高いものにして食べさせるからであります。これも今後の大きな課題であると思ひます。

本町の場合は、畜産といっても農業と組み合わせなければ振興し得ないのはご承知の通りですが、畜産の振興充実を図るには、なんとしても約一五〇〇ヘクタールに及ぶ原野の開発事業であり、北阿蘇、菊池地域広域農業開発事業に取り扱むことにより、三〇〇ヘク以上の、草地造成及び、管理用道路幹線道路の整備や、基地造成工等を行ない流通センター的な畜産基地建設に邁進致す計画であります。



仔牛馬品評会風景

しかし、町の基本方針はあくまでも道路が基本であり、草を作り農業の源で、土作りをすることが源点であります。関係各位の皆様の深い理解と将来に対する基本方針のもとで最大の御協力をお願い申し上げます。

また四十九年六月に町内に発生した牛バエ幼虫症に対しては、国、県の積極的な協力を頂くと共に畜産農家の皆様の全面的ご協力を得ましたことにより完全なる防除体制が確立し、それに農協の多大のご助力を得たためどうやら今春までには終息させる見通ししております。然し最終発生期までは絶対に油断なき状況から、更に強力な防除体制を敷き、価格の安定と生産に力を入れ、小国生産牛の価格と名声を上げがすことのなきよう努力致す所存であります。

◎林業問題

本町の森林資源は誠に価値ある自然環境の基に毎年拡大造林を重ね、小国林業の名声は一段と高くなりその材質のすばらしさが全国的に認められていることは申すまでもございませうが、林業の基盤である搬出道路の不足から収益率が悪く、例年林道の整備には力を入れてまいりましたが、本年は更に重点的な施策の一環とし、継続

事業で実施しております林道河内線、立岩線の開設事業及び舗装事業、上矢田原線舗装事業のほか、林分改良事業としての大久保線、二又線、天道川線の開設事業、更に林業構造改善事業としての森林組合事業の林道平瓜線開設、作業道としての小波瀬線開設など恵まれた森林資源の開発促進に特に力を入れ、先駆者より後世に残して下さった森林資源を更に価値あるものとしたいと考えております。

又、森林組合とは緊密な連携をとり、後継者育成と林業振興、充実に力を入れます。林研クラブ等の育成に力を入れます。尚、本年度は中核林業振興育成特別対策事業を国、県より指定を受ける予定であり、今後の林業問題に明るい見通しであります。

◎町有入会林野整備

昭和四十一年七月近代化に関する法律が施行され、本年度は補助金制度が、最終年度を迎えるこの法律は、広大な面積を占めている入会林野を農山村の人々が健全な発展に役立てる為、これまで複雑な権利関係を近代的な権利に改め高度な利用が出来る様にすることを目的としております。



風景研修会技術育成道林

◎社会福祉と老人福祉

社会福祉制度は、戦後の大きな社会変動の結果、そのニードは多様化し地域福祉之、拡大されました。住民の福祉問題に対する理解が深まりここに民生委員が横の連帯を強め共同で問題、発見に努め其のかなめとなり、福祉を向上し得たことは住民の皆様の御協力であると心から感謝申し上げます。今後とも、生活環境整備をし、其の充実をめざし福祉政策を重視しなければならぬ医療と公共施設の増強、生活を中心とした地方行政を果さねばならない。常に老人

には感謝の意を表わし、身障者にはあたたかい手を差し伸べ、住み

良い生活環境を作ることが私共の使命であります。特に当町は子宮ガンが他町に比べ、最高であり、また、高血圧に対しても最高を示し今後も町の基本方針としては何をさておいても、健康管理を重点目標として真剣に取扱む所存であります。先づガンに付いては早期発見に努め、高血圧に付いても五十一年度より三ヶ年間に亘り県の指定を受け、農山林業従事者、対象五百人を実施します。町の行政指導と致しましては病気になるような健康作りと食事法及び薬草による健康法を推進して行きます。

福祉行政の充実が時代の転換と共に要求され、町行政の中でも大きなウェイトを占める今日、生活環境の整備と民生の安定を図り、明るく住み良い町とするために、鋭意、努力を重ねている所存でございます。先ず五十年年度事業として建設した黒川保育所も関係諸氏の多大なご協力を賜りまして、開所の運びとなりました事に対し深甚なる敬意を表します。

年々増加する老人の方々には、憩いの場の充実と軽運動であるゲートボールの振興等に努める所存

であります。

◎道路建設、防災、交通

道路は生活に必要な総ての機関であり農、畜、林、観光と重要な関係であります。道路網の整備は、本町の今後の発展のパロメーターともいうべき重要事業であり、国県に於かれましては、町内地域の道路の改良整備にご尽力戴き、国道二一三号線のバイパス建設工事をはじめ主要地方道、竹田、小国線や県道、産山、小国線の改良舗装工事等、市原、満願寺間離合所及び改良設計予算も付き、着々と進んでおります。これら事業と合せて町道整備事業は過疎化防止と住民福祉に欠かせないもので、本年度も中湯田、樋ノ口線や、星和、矢ヶ部線などの舗装事業や諸改良事業費など計上しました。

消防施設と致しましては、全消防車に無線を取付け緊急時に備え適格、びん速に指令がいき、災害を最少限にいくいとめられる様計画致しております。又、河川及び消火栓においても夜間でも見えるよう標柱を立ていつでも動作が出来るよう現在準備中です。

交通網に至っては、反射鏡、ガードレールの安全施設を随時取り付け、交通事故が起きない様最大の努力を致しております。

◎公営住宅

本町内でも黒川地区は特に住宅難を呈している事から、本年度に於いて公営住宅八戸を建設する計画であります。このため先づ用地取得造成費を当初予算に計上しました。

尚、未計上の南小国中学校建設に係る用地取得造成事業費や山村振興事業費などは、見通しがつき次第、早ければ六月補正として予算計上したいと考えております。

また道路整備事業等についても補助や起債見通しが立てば、同様の措置を講ずる所存であります。

◎過疎対策、中小企業、観光

過疎対策は、本町に適した無公害企業の誘致について最大の努力を致すと同時に、五十年年度は黒川温泉の公園化も出き、今後の温泉開発事業の基盤となりました。

今後は、山と川名勝、古跡をいかした開発事業に取扱みたいと存じます。

中小企業は、人口を増すことを最大の目的とし中小企業関係者が和合と理解により企業の安定の道作りを行ない、本年度は特に、経費の節減に努められるようのであります。観光については、先づ経済課と経済観光課に改め、そのもと

作り、町民の観光の御世話をし、

いかにして観光客を導入するかを十二分に検討し南小国町の観光をPRする計画を致します。

又、青年、婦人、壮年、老人各種団体研究グループの活動に当り最大のお手伝を惜みなく行ないたいと考えております。政治体制に色々ありますが議会制民主主義が、最も適合している政治体制であると信じます。私は重ねて対話を協調し、健康でなければ真価を発揮できないと考え、全精力を主傾注して挺身することを誓うものであります。

必ずや全町民の皆様の活力を発揮して現下の困難を乗り越切り、明るい明日への道を切り開く事ができる事を確信すると共に私も根底より献身する強い決意であります。

全町民の皆様と共にお互いに協力し合い、努力し新しいモデルになる様な町として、希望を持って邁進する様切望する次第であります。

最後に町議会議員の各位を始め全町民皆様の御協力と指導御鞭撻を衷心より御願ひ申し上げます。私の昭和五十一年度の施政の方針と致します。



隊道改良工事進む

▼地蔵原―宮原線(滝下)

▼中湯田―瓜上線(中湯田)

▼志童子―満願寺線(志童子)

昭和五十年年度町長の施政方針の中で隊道改良工事は特別補正予算により、計上計画実施の運びとなつたもので、この三線は、幼児、小学、中学、高校生生徒達の通学路として緊急改良工事を要したものです。

一、地蔵原宮原線隊道においては

総工費 隊道三九四、二〇〇円
道改良一、八六〇、〇〇〇円
延長 隊道部分五〇、四メートル
巾員四メートル
道改良四二、六メートル
巾員四メートル
期間 昭和五十一年二月十二日
～五十一年三月二十五日



終了 昭和五十一年三月二十五日

二、満願寺志童子線隊道改良工事

総工費 一、八三四、〇〇〇円

延長 一〇三メートル

期間 昭和五十年十月二十九日

～五十一年一月三〇日

終了 昭和五十一年一月二十四日

三、瓜上中湯田線隊道

総工費 三二七四、〇〇〇円

延長 四八、四メートル

期間 昭和五十年十月三〇日

～五十一年一月三十一日

終了 昭和五十一年一月三十一日

日



四月

「農作業メモ」

(文責 農協指導販売課)

水稻―普及苗代、保温折衷苗代の施肥量は、苗代面積一〇坪とした場合、完熟堆肥五〇キログラム、ヨーリン一〇キログラム、化成肥料(特一六号など)五キログラムをよく床土と混和する。種まき一週間以上前に施す事。
田植機用苗代、株まきポット等は、種まき三〇日前に肥料と農薬をまぜておく事。土は完全に乾燥させない方がよい。
田植機苗の場合一〇アール分は、床土九〇ℓ、育苗肥料五



〇〇g、イオウ華二二〇g、タチガレン粉二二〇gをよく混和する。株まきポット及びペーパーポットの場合は、床土一〇ℓ、一七〇ℓ、育苗用肥料六五〇g、九五〇g、イオウ華二〇〇g、二五〇g、タチガレン粉一五〇ℓ、二〇〇gをよく混和する。特にイオウ華やタチガレンは種まき直前にまぜても効果は出ないので注意する。
本田の耕起は、有機物(ワラ、堆肥等)を投入し、ケイカル、ヨーリンを散布し、出来るだけ早目に行う。早く耕起した方が田植後のガス発生が少なく根ぐされが防げる。
野菜―春まき人参、午ぼう、インゲン、枝豆、里イモの種まき植付け
野菜は酸性土壌では育たないものが多いので炭酸苦土石灰を一坪に五〇〇～六〇〇g施し土を中和する。堆肥を多く施す。野菜つくりはまず土つくりから。
阿蘇たかなの収穫。根元のかたい部分は食用にならないので必ず手で折って収穫する。
その他庭園等に芝を植えるのは四月が最もよい。
スイートコンは四月下旬頃より種まき始め。一〇a四ℓまき。農協共販用品種は早目に農協に申し込む事。

国立阿蘇青年の家 研修に参加して

里組婦人会

家庭教育と親睦を研修のテーマに、二月十日・十一日の一泊二日の日程で六十才を過ぎた人から若い二十代の人まで留守を主人や子供に頼んで又、子供を里親に頼んだりして家族の理解と協力によって研修に立ちました。

市原停留所に午前八時全員希望に胸をはずませながら喜々として集まり、定期バスにて十時には青年の家に着きました。素晴らしい天候に恵れ暖かく絶好の研修日と

なり、雄大な阿蘇山が薄化粧して目前に聳え広々とした野原に白亜の青年の家があり美しく感じられ身も心も感動しました。

当日は六団体三〇七名の入所でオリエンテーションの後、役割と室がきまり衣服を着替え研修室にて正午までスライドによる文化財の研修、一時より青年の家、森先生の家庭教育と健康のお話し。アコデオンによる心と体の疲れをとる歌とハンドゲームで腹の底か

ら大笑いしました。笑いは生活の中で一番大切で笑いのあった日は充実した日であるとの事で「我以外皆師」。「春風心以人接」一期一念と日常生活上心に置くに相應しい良い事を教えて下さいました。五時、六団体夕べのつどいがあり研修を目的を佐藤支部長さんが発表されました。「降される旗の彼方に春陽落つ」。夕食後キャンドルファイアーがあり、交歓会では小国セレンナーデを歌い市原音頭を踊り好評でした。ゲームではジャンケンをして負けた人が勝った人を背負い又、フオークダンスをしたりして童心にかえり唄ったりとんだり、とても楽しい夕べでした。「春灯に三〇〇人の笑顔かな」。

自由時間に上益城郡清和村婦人会幹部研修の方々や食堂で婦人会のこと、家庭の事を色々意見交換をして有益でした。

十二日は七時起床、朝のつどいは久し振りのラジオ体操に手足が思う様に動かず、間違ったりして苦笑しました。きびきびした各団体の人々と一泊したばかりで旧知の友の様に心安くお早ようの挨拶も心楽しいものでした。九時三〇分より教育事務所のお話があり、「うるおい」愛情深い信頼出来る経済性のある人に育てる様に努力せねばならない世のため人のため積極的に活動する人に育ててほしいとの事でした。この後、上益城

郡清和村婦人会とフオークダンス、民謡等の交換をして別れ野原に出て思いきり走り回り、太陽を浴びて大自然のもてはしやぎ満足でした。テンプルマナーでは食欲盛んで殆んど腹に納ったようでした。楽しかった研修も終え荷物をまとめ一斉にさよならくと、別れを惜み青年の家の窓から手を振りホテルの光の曲が流れ、目に涙の浮かぶ感激でした。老いも若きも一緒に楽しく研修が出来、素晴らしい天気と良き師良き友によって心の隅々まで清らかとなって本当に楽しい研修でした。何回行っても、規律正しく楽しい行事と研修が出来、一生忘れません。又、行きたいと思いました。

昭和50年度日本青年 海外派遣アジア第2班に参加して 志津上 松岡明一 24歳

今回の青年海外派遣は全国より約70名の青年男女が、欧州(第1班)(第2班)、アジア(第1班)(第2班)、北米班、中南米班の6班に分かれて各国を訪問するもので、私はこの中のアジア(第2班)でタイ、マレーシア、シンガポール、香港と以上4ヶ国を訪問し、内2ヶ国タイ、マレーシアを重点的に訪問してまいりました。

タイ、マレーシアでは現地の青年と交流を交しました。

私自身にとって、今度の短期青年海外派遣の東南アジア14日間の旅行は私の青年時代として最良の14日間になるのではないかと思います。初めて東南アジアの国々を訪問して見ますと、見る物、聞く物の全てが初めての体験であり、印象深く残るものばかりでした。

9月11日、羽田空港を出発して行路を最初の訪問国であるタイ国へと向った。

バンコック空港へ到着した時はもう外は暗くなっていましたが、機外へ出たとたん、外気の暑さには驚きました。が、それ以外したバンコックに到着している感じはしなかった。バンコックと東京間には2時間ほどの時差があったが、少しとまどった程度で時差ボケと云うほどではありませんでした。ターミナルへはいった時始めて外国へ来ているんだなーと云う実感がわいた。

翌朝、ホテルを出ると朝のラッシュは少し過ぎていたが都会のごみごみした所はどこも同じようであった。ただ走っている車のほとんどが日本製の車であり、それともかなり古い型の車が多かった。たまに音と黒煙を出して走り回っているのが目についた。

又、メナム川での水上生活の様子は強烈な印象を受けた。そこで生活している人々にして見れば、その川が交通機関であり、いろんな面で生活に密着していた。

メナムを案内してくれたガイドの人が最初に今日のメナムはとてとても奇麗ですといった言葉が、今でも思い出されます。我々の感覚からすれば川の色が透明でずんでる状態を想像しますが、その色は何だか濁って見え、水上での生活の様子は日本で見る写真やパンフレットではかなりの相違があります。

しかし何といっても、タイは仏教の国らしく町のいたる所に寺院等が沢山あって、毎日朝・夕はおおぜいの人達がお参りに来ています。その信仰の熱心な心とゆうものは、日本人とはくらべものにならないものがありました。

再び空路、次の訪問国であるマレーシアへ飛んだのは9月16日でした。マレーシアは複合民族国の為、色々な人種の人々が集ってその構成は次のようにマレー人47%、中国人34%、インド系人9%、その他10%となっていて、国の政權、経済権と云うものは圧倒的にマレー人と中国人が握っており、政權はマレー人が、経済権は中国人が多く握っているそうです。

又、いろいろの人種が集っているので使用されている言葉も主に、マレイ語、英語、中国語、タミール語とさまざまあり、国語憲法でマレイ語となっているそうです。しかし長い間、英領の植民地であったため習慣などヨーロッパ的な所がまだ残っていました。街のいたる所に綺麗な芝生などが手入れされ非常に緑の多い所でした。

ここでも日本企業の進出はすざましく、日本製の商品も町で多く見られました。とにかく安い賃金には驚きました。日本企業で働く日本人一人の給料で現地の人が約百人近く使えるそうですからびっくりしました。

最後にシンガポール、香港とに立寄り、この旅行で感じたことは、語学に強かったらもっと多くの人に会い、生の声が聞けたのになとそれだけが心残りでした。

運動をテーマ 対抗駅伝大会

市原小学校グラウンドより1区間2,0km
をスタートする20代19チーム



“一時間七分二秒の高記録”に輝く馬場チーム

二位 TST (田中、千光寺、竹ノ熊)

三位 湯田Aチーム

去る三月七日(日)

家庭の日

春の交通安全運動をテーマに本町社会体育協会主催による第一回部



落対抗駅伝大会が開催され、参加団体十九チーム、総員三百六十四名と小国署より署長をはじめ七名の協力を得て、午前九時市原小学校グラウンドに勢ぞろい、大会会長藤堂町長は世界の願い交通安全のタスキを胸に激励の挨拶を交し、午前十時爆竹のあいざと同時に一斉にスタートの火ブタを切った。この日は本町出身、鞭馬幸助選手(湯田上 鞭馬司氏の長男、現在熊本リッカー勤務)を招待選手に招き、全区間を力走してもらった。

全長二十キロ、十二区間で年令差別、四十代二名、三十代四名、二十代六名と合計十二名が一チームとなって競技がきそわれ、沿道では部落の応援団や、近くの主婦、子供達もおしみなない声援を送っていた。尚、この日は肥後銀行小国支店よりトロワイ、区間賞に町内商工会より副賞をいただき大会に花を添えた。

全区間二〇キロを力走する鞭馬幸助選手
熊日主催都市対抗駅伝大会において区間賞を獲得阿蘇郡チームのヒーローとなる

8区間を力走する
30才、1,3km
巡り瀬より大神宮まで





↑
優勝をかざる馬場チーム

春の交通安全

第1回部落



招待選手 鞭馬幸助氏 →

成績表 区間賞は次の通りです

区間 チーム名	1 区	2 区	3 区	4 区	5 区	6 区	7 区	8 区	9 区	10 区	11 区	12 区	順位
湯田 A	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.馬 場
馬 場	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.T S T
T S T	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3.湯田 A
市原小	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	4.波居原
波居原	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5.市原小
中中原	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6.上中原
下 町	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	7.里 組
下中原	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8.満願寺
脇 戸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9.湯田 B
満願寺	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10.中中原
杉 田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11. 扇
里 組	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12.杉 田
上 町	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13.下中原
扇	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14.脇 戸
上中原	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15.上 町
湯田 B	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16. イエローズ
イエローズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17.新 町
新 町	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18.本 町
本 町	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19.下 町
氏名	河津哲文	4;18	岩下利雄	6;20	高村利幸	3;41	村上文明	3;59	菊池国義	6;13	時松正行	2;58	
区 間賞	6:36	鎌水寛治	3:25	皆本秀一司	7:23	鞭馬勝彦	6:11	鞭馬勝征	7:55	大塚義久	3:59	河津三善	

全国商工会連合会

珠算検定試験を願ひ見て

毎年商工会主催による珠算検定試験は年間を通じて三回行なわれています。

六月、十一月、二月
今回は(第四十二回)二月十五日の検定試験の結果をお知らせ致します。

場所 市原小学校
受験者数 八十一名
合格者 二級二名、三級七名
四級以下二十七名の方が合格されました。
又、同日午後一時より町内小学

生の珠算競技大会を実施致しましたところ結果は次の通りです。

◎団体(五名一チーム一五〇〇点満点)

一位市原小学校A 一四五〇点
二位市原小学校B 一四一五点
三位星和小学校A 一三八〇点
◎個人(三〇〇点満点)

一位市小蓮田智彦 同坂本睦子
二位市小松崎竜雄 同井 高寛
同泉千穂、星和小佐藤ゆき子
尚本町商工会により第十九回より珠算検定試験を行なっており、

体育協会より御願い



体育協会各地区部落のスポーツクラブの組織つくりとスポーツ傷害保険加入について
南小町体育協会は昭和四十七年度に発足以来、町のスポーツ振興に努力していますが昭和五十一年度は各地区各部のスポーツクラブの組織つくりを努力したいと思います。町体育協会には六

つの支部と十一の各部があります。支部大会各部が年中開催されていますので、チームつくりには各部の世話人の方が骨折られています。折角交渉してお願いした選手の方がスポーツ傷害保険に加入していきなす格になつたりして困られる事が多くありますので各部落、各地区でスポーツクラブを組織されて、スポーツ傷害保険に加入していただきますように御願ひします。
(1)スポーツ傷害保険については、だいたい知っておられますので略します。追加加入も出来ませんが、大会開催の当日に申込みされる方もありますが県協会との契約が出

現在までの受験者総数は延三三三四名
合格者 一級三名、二級二十三名
三級一四五名、四級以下一三三四名となっています。

小学校 婦人会 消防団が
一体となった避難訓練
去る三月八日(中原小学校)九日(満願寺小学校)は春の火災予防運動期間中に三者一体となった避難訓練、消火訓練が実施され、火災シーンを前に防火意識の向上がはかられた。



来ませんとスポーツクラブ代表の方も手続き等で困りますので四月の当初に全員加入していただく様に御願ひします。
(2)スポーツクラブの組織つくりは各部落、各地区でつくっていただき、例えばバレーボール部等の単一の部でなく各部のある複数のスポーツ愛好者によるクラブを組織していただくのが理想だと思いますが各地区、各部落で色々と問題もあることと思いますので、充分話し合つて研究され、スポーツクラブの組織つくりをしていただきます様に御願ひします。



国民年金の保険料が改められます

四月から千四百円に
昭和五十一年四月から国民年金の保険料は、これまでの千四百円から千四百円に改められます。
国民年金は歳をとつたり、障害者となつたり、あるときは母子世帯となつたりした時に年金を支給年金額に物価スライドによる増額がとり入れられ、四十九年、五十年と二年連続で引上げられた結果、四一、五パーセントも年金がふえました。このようなこともあつて、四月分から保険料は月額千四百円になりました。

◎香典返し

左記の方々より香典返しとして町内学校へ過分の御寄贈をいただきましたので、御披露して御礼にかえます。

(湯田) 村上芳己
(樋ノ口) 武田秀雄
(立岩) 日野澄男
(棚ノ本) 日隈昭之
(立岩) 児玉幹雄
(落見) 佐藤 鼎
◎厄晴れの記念として、左記の各氏より、市原小学校へ教具の御寄贈をいただきましたので厚く御礼申し上げます。

(新町) 平山洋右
(上町) 清高寛之
(下町) 麻生卓晴
(上町) 北里嘉也
(新町) 黒川義輝
(新町) 佐竹春幸
(上町) 北里良文

広報編集だより

訂正しお詫び致します

三月号広報紙の四頁欄で町入会林野整備要綱の中で入会林野整備要綱に基き「墓」と誤り、大字満願寺六〇一二が六二二八の誤り、北里己刀士さんが己力士と印刷の誤りでしたのでここに訂正してお詫び申し上げます。